第 1 号　2019/08/09

「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキケンスケさんのプロジェクト OVET THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

電気が使えるのは当たり前？

インドネシアのジャワ島広域で大規模停電、約 12 時間後に復旧【2019 年 8 月 5 日】

インドネシアの首都ジャカルタがあるジャワ（Java）島で 4 日、広域にわたる大規模な停電が発生し、約 12 時間続いた。インドネシア国営電力会社（PLN）によると、数か所の発電所が一時停止したことが原因だ。

人口約 3000 万人の広大なジャカルタ都市圏では、停電により建物は暗闇に包まれ、新高速鉄道が一時的に運転中止に追い込まれるなど、数千万人が影響を受けた。ジャカルタ都市高速鉄道（MRT）の運営会社によると、停電の発生時に乗客は安全に退避。また他の通勤列車への影響も出た。

停電は、発生から約 12 時間後の午後 11 時（日本時間 5 日午前 1 時）ごろまでにジャカルタのほぼ全域で復旧した。同市はこれまでも停電に見舞われたことがあるが、4 日の停電は異例の長時間に及んだ。PLN によると、この大規模停電はジャワ島西端にある主要発電所のガスタービンが故障し、さらに別の施設でもトラブルがあったために発生した。ジャカルタ市内の病院とスカルノ・ハッタ国際空港は非常用発電機を使用し、停電の影響を免れた。

停電になったジャカルタ市内

停電で止まった電車から救助される人々

8 月 5 日に KOMABA ジャカルタ校の佐嶋先生から「停電になりました！子どもたちの安全を考えて明るいうちに帰します！」という連絡が入りました。私たちは電気があって当たり前の毎日を送っています。朝、職場に行ってパソコンが使えないことなど考えませんし、寝る前にスマホの充電ができないなどとも考えません。

ところが世界を見ると、今もなお 5 人に 1 人が電気のない生活を送っていますし、アフリカのサハラ砂漠より南の国では 68%(！)が電気のないくらしを送っています。日本でも記憶に新しいのが東日本大震災の時です。東北だけでなく日本全体が電力のありがたさを感じ、そして電力のありかたについて考えさせられました。

ジャカルタの停電は幸い翌日の夕方には元通りになりましたが、このような時に「ふーん」で終わらせるのか「もしも自分の生活で電気が使えなくなったら…」と考えるのか、その差は大きいように感じています。　（石川）